

全会派新市長の 政治姿勢を問う

市長所信表明と 議案に対する総括質疑

本議会では、市長の所信表明と議案に対する質疑が行なわれました。

所信表明には、新市長の政治姿勢・マニフェストについての質疑が集中しました。

議案については、生活保護費の増額、上福岡駅バリアフリー化工事の設計変更、市内小・中学校施設改修などの補正。また、各種事業所の再指定に向けて、指定管理の基本的考えについての質疑がありました。

よりよい市民サービスの提供とは

自民クラブ

問 市長の言う「民間企業と同様の発想と経営感覚で、よりよい市民サービスを提供する」とは。

答 行政を経営するという考えから、民間企業のコスト意識や目標管理という観点で市役所の無駄遣いをなくし、事務処理の効率化を進めます。また、民間のサービス精神や接客態度、職業意識なども見習うべきです。

問 職員の意識改革とは。

答 給料は市民の大切な税金が原資なので、一円たりとも無駄にしないことです。市役所は、市民にとって最大のサービス業であることを自覚してほしいと思います。

問 行政情報を市民に提供する方法は。

答 携帯電話用のホームページを充実させる等、若者や主婦層に向けた情報発信が効果的かと思えます。

問 マニフェストの進め方については。

答 市民との契約書なので、財源を確保して実現に向けて努力します。

問 総合振興計画とマニフェストの整合性は。

答 整合性はとれています。

視野の狭いコスト主義にならないか

日本共産党

問 市長は「民間企業同様の発想と経営感覚で、低コストでサービスを提供する」と言っている。民間のよいところは見習うべきだが、企業の目的は利潤の追求であり、住民の福祉とは全く異なる。視野の狭いコスト主義に陥る危険性が高いと思われるがどうか。

答 コスト削減だけではなく、行政を経営するという視点で進めたい。金銭上の無駄遣いや非効率があれば改善していきま

す。コストを落とした上で市民サービスを提供していきたい。

問 大井プール事故の刑事裁判が終わり、行政責任と再発防止の具体化は、これからが本番。皆さんの連鎖を招いた構造的原因の究明や、契約実務、行政管理の視点からこた

えるべき。

答 今後、委託業務にかかる業者選定や契約方法などの改善を図り、予算の積算にも厳しく対応していきます。

問 後期高齢者医療制度の廃止については。

答 後期高齢者だけではなく、健康保険制度そのものの見直しが必要だと考えています。

市民意識の融和 どう対応するか

公明党

問 市民意識の融和が大きな課題である。どう対応していくのか。

答 それぞれの地域の交流は進んでいますが、さらに今後積極的な対話を通して、融和からきずなへと一歩前進を目指します。

問 市内には、いまだに基盤整備の行き届かない地域がある。市内における地域格差について、どのような認識を持っているか。

答 選挙戦を通して、市内をくまなく回りました。これからもさまざまな声を直接聞き、同じ方向を見て歩く中で、解決策を検討していきます。

問 健全な財政基盤として目指す財政規模は。また、事業見直しの手法として事業仕分けをどのように進めていくのか。

答 二五〇億円程度を適正規模と考えています。事業仕分けは、ある程度の

公約の実現と予算との兼ね合いは

正翔会

問 所信表明の中に「マニフェストに掲げた公約の実現」とあるが、財源との兼ね合いはどう考えるのか。

答 確かに財源の問題や国の政治状況なども考えながら、マニフェストの内容を進めていかなければなりません。しかし、私と市民の皆さんとの

約束であり、市政における重要な柱として捉えています。

問 来年度早々にマニフェストで実施が予定されている職員採用のストップなどは、行政の継続性を損なうものと考ええるがどうか。

答 損なうものとは考えていません。

問 これまで定年退職者数の半分の採用が行なわれ、合併から四年間で約一〇〇人が削減された。そして、この先三年間で六十四人の退職者数が見込まれている。現状を理解した上での提案か。

答 人件費の削減は財源の確保につながり、一人当たり約一、〇〇〇万円の人件費と試算した上での政策です。また、新規採用にこだわらず、後年新たにその世代を確保するという考えもありますし、隣の富士見市と比較しても、職員数は決して少なくはありません。